

生活科フェスティバル

4日、1・2年生が九町保育所の園児を呼んで「生活科フェスティバル」を開催しました。5名の児童が3つのブースを開き、自分たちで考えて作ったおもちゃを使った遊びを園児たちに紹介しました。ゴムで進むおもちゃの距離を競う遊び、うちわの風を受けて走る車の速さを競う遊び、磁石を使った迷路遊びと3つのブースそれぞれが、工夫を凝らした楽しい遊び場でした。



1・2年生が学ぶ生活科は、「具体的な活動や体験を通じて、身近な生活に関わる見方や考え方を育み、自立して豊かな生活を営む力を養う」ことを目指しています。1年生にとっては、幼児期の教育と小学校教育をスムーズに接続するために、生活科は重要な役割を担っています。

生活科の授業では、見る・聞く・触れる・作る・探す・育てるといった具体的な活動や、そこでの気づきを言葉・絵・動作・劇で表現することが中心です。今回のフェスティバルでは、ゴム、風、磁石の力を利用したおもちゃが登場しました。これらのお

もちゃ遊びは、3年生で学ぶ理科につながる重要な学びとなっています。

「遊び」の重要性は、それだけではありません。子供たちがおもちゃを作るとき、作ったおもちゃで遊ぶときには、さまざまな試行錯誤を重ねています。また、約束やルールなど遊び方も考えています。そこに自分自身や友達との関わりが生まれます。輝さんと大翔さんのチームは、コースの下に空き箱を置いてふくらみを持たせることで、簡単にはクリアできないような工夫をしていました。ゲームに夢中になってそこを踏んでしまうので、「ここはふまないで」と注意書きを書き込む対応もすてきでした。

今回の生活科フェスティバルでは、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする姿を見ることができました。

1・2年生のみなさん、すてきなフェスティバルになりましたね。

